

平成28年1月スタート

『エデンの園へ遊びにきませんか?』

～学校が終わった後の数時間…。どんな楽しいことをしましょうか?～



障害者支援施設 エデンの園の明るいスタッフ達が、遊びを通して、安心して過ごせる場所を無料で提供いたします。気軽に足をお運びください。

- 【募集人数】 10名程度
- 【募集対象】 小学生から中学生 手帳を持たれていない方
- 【活動内容】 集団遊び・屋内外遊び・園芸・収穫祭・奉仕作業・クッキングなど
- 【利用時間】 平日12:30～18:30 (土日祝祭日:お休み)
- 【お問い合わせ】 障害者支援施設 エデンの園
電話(0985)75-4936 メール eden-sien@adagio.ocn.ne.jp

排泄の基礎を学びました

12月2日、16日の2日間、介護技術向上の為、おむつフッターの大嘉田さとみ様(カクイクスウイング)をお招きして、排泄の基礎を学びました。

排泄ケアに対する考えから、実際に装着してみるなど多くの学びがありました。今後は実践編の研修を予定しています。



アセスメント研修会

12月16日・1月6日、アセスメントに関する研修会が行われました。

よかよか南方管理者の原幸司様をお招きし、講義やグループワークなどを通して、高齢者支援で実践されている「センター方式」を学びました。



応急手当の講習を終えて

看護師
東屋 理香

昨年7月に研修を経て応急手当普及員となり施設内で職員対象に応急手当の講習をさせていただきました。高齢期の利用者様が生活されているわが施設では急変心肺停止状態に陥る状況がいつ発生してもおかしくはありません。病院等では医師により速やかな処置を受けられますが、施設では職員が応急手当を施しつつ医療機関へ連絡をすることとなります。

連絡を受けた救急隊員が到着するまでに私達職員がその場の状況を判断して迅速に対応しなければなりません。

不測の事態でも対応できるように自分自身も日々、応急手当のイメージすること、研修内容の復習、様々な事を想定して勤務にあたる姿勢を持ちたいと思います。また早期発見をすることが早い対応につながります。その為には利用者様の普段の状態を知っておく必要があります。職員間で情報を共有し支援にあたっていきたいと思います。



一粒の麦300号に寄せて (50音順)

「一粒の麦」、前身の「エデンの園だより」が合わせて300号となりました。縮刷版を作成し、その縮刷版を読んで(見て)の感想を集めました(一部要約)。

(ご家族)

甲斐 節子 ある日、ホームひかりで書類の山を発見。手に取ってみるとずしりと重たい。「エデンの園だより・一粒の麦」の束である。40年間、エデンの園を支えられた人々の真心の重みに胸が熱くなった。パラパラとページをめくるとあんなことこんなこと思い出していく。まだまだ私の知らないエデンの園が眠っている。これからホームひかりでの古くて新しい出会いを楽しみたい。

片地フサ子 自分の人生を振り返ってみる時、智子(娘)がいてくれて、色々教えられてきた人生だったなあと思います。エデンの園でもう27年にもなりますが、その間色々な方との素晴らしい出会いがありました。本当にありがとう。

竹井 義信 「一粒の麦」が300号を迎えたんですね、おめでとうございます。読者の一人として、いつも読ませていただいていたのですが、ふり返ってみて、そのすこさ、歴史の重みを感じずにはおられません。

「一粒の麦」は会報というものにとどまらず、エデンの園の灯台か、羅針盤のようにも思えます。これからも私たちを導いてくださるよう、お願いいたします。

竹井 静子 我が家の長男智樹(43歳)は19歳のとき入所させていただき、20歳になると他の3人(内野誠也さん、幸野進也さん、鎌田良子さん)と共に、宮本初代園長先生が成人式をして下さいました。その記念写真が「一粒の麦」の一面に載りました。夏祭、運動会、社会見学旅行、クリスマス会…と年間行事はもとより、日常の班活動では利用者の生き生きとした姿が写真入で載っていて、毎回楽しく拝読してきました。

300号ですかぁ!「一粒の麦」は利用者の生活記録であり、エデンの園の歴史ですね。これからもずっと続いていくことを願っています。

坂下 スミ 日々の流れは早いもので、次義がエデンの園にお世話になり来年で38年になります。また、還暦を迎えます。元気でここまで見てくださった役職員の皆様ありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。入園当時は落ち着かず迷惑をおかけしましたが今では安定した生活をしておりほっとしています。新しい出会い、楽しい思い出…あつという間の年月でした。これからもよろしく願います。

坂本美巴子 発刊300号、おめでとうございます。エデンの園の歴史、行事や出来事、また職員の方々の利用者に対する想い、考え、工夫等々を「一粒の麦」で示して下さり、離れて暮らす家族も安心して過ごせます。あの日、あの行事、旅行スライド、とても楽しみです。支援でお忙しいでしょうがこれからも続くことを楽しみにしております。

村木佐知恵 平成12年発行の一粒の麦227号に理のショートステイの写真が掲載されているのを見つけ、懐かしく胸が熱くなりました。当時、父親が東京に単身赴任していたので、年に数回4つの施設を利用していましたが理はエデンの園を利用する時が一番喜んで行き、楽しんでいました。次の年に縁あってエデンの園に入所が決まったのですが、私は理が自分にとって一番いい施設を選んだのだと思っています。

(職員 50音順)

廣瀬 恵 開園前から始まって40年、298号までの縮刷版は分厚く重い。人がいた。笑顔があった。涙があった。先人たちにも会える。この調子でいくと400号は25年後。若い仲間を期待している。

庵崎 梢 300号、歴史の深さを感じた。新たな歴史の1ページに自分も加われたことに感謝する。これまでエデンの園を支えてこられた先人達の思いをしっかり受け継いでいきたい。

海野 智恵子 「バンドを組んで県外まで演奏に行ったとよ!」とKさんが嬉しそうにお話をされますが、一粒の麦を読んでよくわかりました。エデンの園の歴史の1ページに関わることができることを誇りに思います。

岡本 知香 38年という歴史の中で変わらないこと、それは、「愛」の関わりがあるという事実。“一粒の麦”も、1号、また1号と重なる度に色々な想いを載せて読者に「愛」を届けてきた歴史を胸にとどめ、新たな歴史に意欲と情熱を持って関わっていききたい。

甲斐 正人 人は生きていく中であらゆる試練に遭遇していきます。エデンの園に就職し何よりも感謝することは神を見上げて生活していくことを知ったことです。一粒の麦 300号記念おめでとうございます。

川辺 宣敬 目まぐるしく変わる時代の中でも、前進していけるよう職員間の連携を深め、団結していきたい。一日一日、一粒一粒、かけがえのない時間を尊敬できて大好きな利用者の皆さんと共に過ごしていきたい。

五島千恵子 手書きの『一粒の麦』…。「パソコンもメールもまだ使ってなかったんだなあ…。〇〇さんと手を繋いで近所に配達したなあ…。」古き良き!?時代を振り返るひととき。時代は流れた。しかし、利用者さんの笑顔の写真は今でも、そしてこれからも続いていく。

陶山 康子 「一粒の麦」少しも変わらない?随分変わった?色々な事を懐かしく思い出しながら月日の流れを感じます。変わる必要性、変わらないことの大切さ。どちらも身も感じながら、戸惑う今日この頃です。

園田 海生 様々な人たちが愛を持って利用者に関っていたことが感じ取れた。加齢などにより様々な変化はあったが、愛を持って関っていたことは変わっていないし、守るべきエデンの文化だと思った。

谷口 博孝 300号という数字に「歴史」を感じる。「エデンの園」という組織が様々な人々の支えによって作り上げてきたことに「凄さ」と「重み」を感じる。歴史の構築者の一人として自分なりに頑張りたい。

長友真佐子 たった一粒の麦が芽をだし、日照りの日も、寒さにも耐え、やがて300の苗となり、実を付けた。写真一枚一枚が良い思い出。さらにこの国富の地で、400、500の苗となり、笑顔という穂を実らせることが出来るよう、土となり、水となり、そして太陽となれるよう努めていきたい。

東屋 理香 麦のイメージ。一つの軸に実がぎっしりとつまっている。地に落ちた麦は終わりではなく永遠の世界に向けてまかれ、無数の実を結ぶ。私もここにいることに感謝し力いっぱい生きていきたい。

日高信二郎 「エデンの園便り」から「一粒の麦」へ、手書きからワープロへ、指導・訓練から支援へ、園生から利用者へ、同紙を読むとエデンの園の歩み(歴史)が分かります。なつかしい思い出がいっぱいです。未来が豊かな実を結ぶ(ヨハネ伝 12:24～25)エデンの園となりますように、私も“一粒の麦”になりたいです!

町田 紀恵 就職し初めての仕事が一粒の麦の編集でした。当時は手描きで字が下手だと自負?している私は嫌で仕方なかった記憶があります。エデンの園の歴史としてこれからもずっと続いていくのですね……

宮本由美子 一昔前、二昔前…と振り返り、懐かしい顔や出来事を思い出す機会となりました。初めて一粒の麦の係りになり2年が経ち、情報を集める段階から携わっていると『こんな事があった』『こんな利用者の方の表情が見えた』など再発見する事が多くありました。今後もエデンの園が発行する情報としてエデンの園を幅広く知っていただけるよう内容構成等に考慮していこうと思います。

山崎美智子 38年というエデンの園の歴史の中に、私も存在しているという事。振り返ってみて何が残せてきただろうか?これからは時は進んでいく。何か一つでもここで成し遂げられる事が出来る人間でありたい。

山本 和寛 長い時間の中には、たくさんの人の想いや関わりがあり現在まで至っている。先人の努力を無駄にしないよう、また、これからの発展を期待・希望を持ちながら、仕事に携っていききたい。

渡部 強士 300号、歴史の積み重ねを感じる。過去と現在と未来、それぞれ大事で、振り返りながら絶え間なく歴史を紡いでいく必要がある。プロの支援者組織として笑顔で安心して過ごしていただけるサービスと環境を提供し新たな歴史を刻んでいく。

地域交流

ふれあいだより

第2回 S・K・B(サンライズ・クミトミ・バンド)コンサート

エデンの園 ふれあい 生活支援員 川辺 宣敬

11月にふれあいにて第2回SKBコンサートがありました。それまでたくさんの練習を積み重ねました。当日は、みなさん練習の成果が出てとても楽しそうに演奏に歌にダンスをされていました。

地域交流という事では、10名程の方が来て下さり、交流の機会になりました。曲の間は手拍子、演奏後は盛大な拍手…その光景に目頭が熱くなりました。演奏する側、聴く側の双方の想いが一つになったという証だったと思います。

これからもこのような機会を大切に、味わいのある、ふれあいらしい音楽を通して、地域の方との交流のきっかけの一つになればと思います。



寄贈品寄付金ありがとうございます。

(敬称を略させていただきます H27.10月~12月)

内野 緑、佐藤カズコ、中内峯子、岡山愛子、イ・ジョンミ、ナ・ヨンファ、甲崎修三、野口恵子、大宮ブラザーズ、宮王丸郵便局、はまゆう園、宮崎マルサプロパン、電気管理協会、らいふのパン、都城点訳・音訳友の会、北郷町民生委員、星加トヨ子、中山良三、甲斐 龍、福田京子、エデンの園家族会、竹井義信、宮崎清水町教会、宮崎教会、宮崎教会女性会、宮崎中部教会、北九州復興教会、宮崎めぐみ聖書教会、坂本久光、高山幸哉、岩元巖、湊玲子、檀上浩、宮崎清水町教会有志



ボランティア

(敬称を略させていただきます)

馬原舞衣、長友絢芽、SYS チーム、劇団 夢、落合理恵子、片地フサ子、佐藤カズコ、竹井静子、村木佐知恵、甲斐節子

土曜学校メッセージ

印 慶子 牧師(宮崎柳丸キリスト教会)	海老原 直宏 牧師(宮崎北聖書キリスト教会)
原田 彰久 牧師(宮崎清水町教会)	金 垣基 牧師(宮崎めぐみ聖書教会)
佐藤 省三 牧師(宮崎南教会)	荒平 大輔 牧師(宮崎北聖書キリスト教会)

編集後記

遂に迎えた300号。今号は少しページを増版して、今の時代を支える仲間たちの想いを綴っています。時代は変われども、想いは変わらず。心暖かい方たちに引き寄せられた私たちに出来ることは何かを常に考えながら、「一緒に」夢を描いていきたいと思えます。

創刊号から現在まで、ご寄稿いただいた皆様、応援して下さいました皆様、真に有難うございます。そして、これからも脈々と続いていくであろう「一粒の麦」をどうぞ宜しくお願いいたします。

後藤 千恵